



## 言葉のおもしろさ～「感謝」にどうして「謝(る)」の文字があるの～

「『感謝』にどうして『謝(る)』の文字があるのでしょうか。」ある先生から尋ねられました。なるほど、『感謝』は相手に「ありがとう」の謝意を表す言葉であり、「ごめんなさい」と謝罪するときの言葉ではありません。しかし、その先生は、「ごめんなさい」には、相手に対する「ありがとう」の意味が込められている。日本人には以心伝心という見えない通じ合いがあり、これら二つの語句は通じていると言うのです。なるほどと思った私は、ちょっと調べてみました。

謝意にも謝罪にも“謝”の文字があります。この漢字のつくりの“射”にヒントがあるかと思い、弓道をかじっている妻に尋ねてみると、射はまさに矢を放つことだそうです。“謝”の語源を調べると、「言」(言葉)という矢を「射」ることにより、引き絞った弓のように張り詰めた心を解放する意味があるようです。そう考えると「ありがとう」も「ごめんなさい」も、いっぱいになった感情を解放する点で同じです。そこに、以心伝心という通じ合いがあると考えたとき、「ごめんなさい」の言葉に、謙虚な「ありがとう」の気持ちを見出すことができるかもしれません。

「言葉は文化だ」といわれますが、言葉には、漢字のつくりやいわれといった語源だけでなく、以心伝心のような日本人の特性なども含まれ、総合的なものなのです。改めて勉強させていただきました。後日、その先生の教室に行くと、黒板に「有り難い」と朱書きの文字がありました。「ありがとう」の語源をみんなで学習したのでしょうか。

言葉の学習、特に漢字の学習というと、いくつ覚えたか、へんやつくり、画数、書順などが取り上げられがちです。もちろんそれも大切です。一方、上述したように文化として言葉を考えることも奥深くおもしろいものです。さらに、ある言葉から発展させて別の言葉を調べていくと、理解や興味が広がります。



<ある日の授業から>

来週はとうとう今年度の最終授業日です。各学級で修了式を行います。また、小6と中3の子どもたちは卒業します。これまでたくさんお世話になった友達をはじめ教科書や鉛筆等の文具、また、教室や校庭などに、心を込めて「感謝」の気持ちを伝えたいですね。